

愛媛資料ネット新聞

2022年
2月19日
土曜日

愛媛資料ネット
愛媛県松山市文京町3
愛媛大学法文学部
日本史研究室
089-927-9316
ehesu.hkaru.me
@ehime-u.ac.jp

コロナ禍が歴史資料を襲う



▲愛媛大学へ資料を搬送



▲GWにコロナ断捨離した屋根裏



▲松前町の旧家

愛媛資料ネットの活動
二〇〇一年三月の芸予地震を機に、伊予史談会と愛媛大学が設立した愛媛資料ネットは、愛媛大学法文学部日本史研究室に事務局を置き、二〇〇四年や二〇一八年の豪雨などで被災した愛媛県内の資料を救出してきました。日常的にも資料に関わる相談を受け付けています。

「コロナ断捨離」に対応

昨年は、新型コロナウイルスの影響で外出を控え、家の整理整頓を始める人が多かったため、家庭に眠る歴史資料が捨てられることが予想され、埃をかぶった歴史資料の重要性を訴える「それ、捨てないで」をSNSで連載しました。その結果、通常の三〇倍のアクセスがあり、毎日新聞・愛媛新聞に掲載され、ヤフーニュースでも上位にランクインしました。五月末には全国から問い合わせが殺到し、他県の場合は該当する資料ネットの情報を提供をし、県内の古文書・襖などを緊急に救出・保存しました。

全ての問い合わせが、先祖の物は捨てたくないが、相談先が分からないという内容で、情報発信の重要性を認識しました。コロナウィルスの蔓延も災害と考え、被災資料（捨てられる資料）の救出を行うとともに、災害資料の保存、すなわち新型コロナウイルス禍の社会を記録する書類・チラシや写真の保存も会員に呼び掛けています。

- ◇ホームページ
<http://snethime-u.ac.jp/>
- ◇フェイスブック
<https://www.facebook.com/ehime.sinyou.net/>
- ◇ツイッター
https://twitter.com/ehime_u



◀2020年5月26日、Yahoo ニュースランキングで2位となった愛媛資料ネットの記事

SNSで発信

「それ、捨てないで！」

緊急事態宣言が出され、大学内での活動ができなかった二〇二〇年四・五月に、ZOOMで連絡を取り合いながら、今できることを考えました。二〇一八年の西日本豪雨の時に開設したツイッターを用いて、資料の大切さを呼び掛けるツイートを連載しました。そのツイートをそのまま紹介します。

◆「それ、捨てないで」①

埃をかぶり、読めない文字で書いてあるものよくわからない紙束…大切な歴史資料かも知れませんが！私達の今までの活動で扱った資料を連載で紹介いたします。お心当たりのある方は、お手元の品を一旦捨てずに、愛媛資料ネットまでご相談ください。（佐々木紫帆）



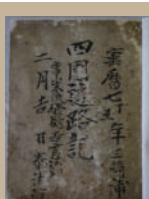
▲2004年土石流被害にあった新居浜市内の旧庄屋に残っていた多喜浜塩田の経営史料

◆「それ、捨てないで」②

墨で書かれた古い日記や帳簿、万年筆や鉛筆で書かれた昭和の日記、どれも大切な歴史資料です。著者の心情だけでなく、書かれた時代の価値観や社会の様子がリアルに記され、地域の歴史を復元することができます。（佐々木紫帆）

▼西日本豪雨で被災した小学校のアルバム

伊方町の廃寺にあった埃だらけの文書群のなかから発見された愛媛県最古の通路日記



◆「それ、捨てないで」③

断捨離中に見つけた一枚の写真。撮影日と名前を頼りにインターネット検索してみると大正十三年の朝鮮総督府職員名簿に名前があった。日韓併合？ 伊藤博文暗殺？ イメージは膨らむ。写真は歴史の証言者となることがある。捨てる前にご相談を。（平井清貴）



◆「それ、捨てないで」④

西日本豪雨で被災したアルバムに、昭和の青年団活動写真がありました。運動会、演劇祭り等の活動やファッション、景観など当時の様子をリアルに伝えてくれます。お家の整理をお考えの方は、是非こうした資料がないか、ご確認ください。（水松啓太）

◆「それ、捨てないで」⑤

古い襖には、襖紙の下に何重にも和紙が張られています。水をかけてはがしてみると古文書が見つかることもあります。江戸時代のパスポート（往来手形）や法令も出てきました。高校生に手伝ってもらったこともあります。襖はがしてみませんか。（胡光）



◆「それ、捨てないで」⑥

祖父母宅の倉庫を取り壊すことになり、見せてもらううちに、中には唐簀（とうみ）がありました。制作会社の張り紙も、色濃く残っています。民具や生活道具も大切な資料。ご相談いただければ、お近くの博物館を紹介いたします。（佐々木紫帆）



「コロナ断捨離」からの資料救出

全国からSNSへの反響があるなか、愛媛県内から連絡があった要請に応えました。すべて松山市の西隣・松前町からの要請です。松山藩領である松山市から、重信川を渡ると大洲藩領の松前町へ至ります。

松前町は、西日本最大のショッピングモールエミフル松前や新興住宅地が展開しています。背後には、昔ながらの水田地帯や旧道、旧家が残り、松山城を築く加藤嘉明が最初に入ったのが松前城であるなど、歴史遺産の隠れた宝庫ですが、資料館などの保存公開機関はなく、専門職員も在籍していません。

旧街道沿いにある大正二年に建築された旧家では、GWに屋根裏を掃除したところ、古い襖や衝立、古文書が出てきたとのこと。捨てるのをためらっていたところ、ツイッターを目にしたら、連絡してくれました。

屋根裏へ入ると、きれいに掃除された中には、それらが取り残されていました。襖の下張りには、明治時代の大幅帳が確認できました。また、戦前に経営していた牧場の史料も見つかり、戦前に都市近郊で展開した乳業の歴史がよみがえります。大学へ搬入し、保存整理を行うことにしました。

えひめ文化財ネットワーク設立

愛媛県教育委員会文化財保護課では、全国でも珍しい、県・市町・資料ネット・建築士会で連携する文化財ネットワークを被災3週間前に構想し、被災後の年度末に動き始めた。

2019年度は、資料ネット会員と市町教育委員会担当者が一堂に集まり、国立歴史民俗博物館天野真志氏の講演とワークショップを開催し、西日本豪雨への対応について成果と課題を共有した。今年度には、愛媛大学も組織に加わり、規約も完成した。

愛媛資料ネットは、今年度20周年を迎えネットワークと共催で、天野氏のオンライン講演会を開催しました。2018年に西日本豪雨から救出した資料の修復が終わり、現在は豪雨被害にあった大洲藩古学堂修復への支援を呼び掛けています。

（制作・文責／代表・胡光）